

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	里地里山の暮らしと生業づくりを行う研修、プランニングと実践活動「なりわい創造塾」の取り組み-
主体	共存の森ネットワーク(なりわい創造塾)
背景(地域の課題)	<p>里地里山の保全・活用の計画づくりにおいては、地域資源の物質的な循環や活用の観点だけではなく、地域の人々の生活様式や生業、暮らしの考え方など、民俗学的な観点からの着眼も大切なポイントとなる。</p> <p>こうした点を考慮することで、地域の暮らしや生業のあり方と市場経済の関係性について調整すべき事項や課題をより浮き彫りにできると共に、実効性や効果、地域住民の暮らしなど地域への影響等についても配慮された計画策定につながると期待される。</p>
手法／方策の詳細	<p>保全・活用計画を進めるにあたって配慮すべき事項として、里地里山の物質的・精神的両面から地域の暮らしと生業に関する考えを深める姿勢が重要である。共存の森ネットワークでは下記の考え方の下で「なりわい創造塾」を実践し、里地里山の価値を見出し伝えとともに実践する取り組みを行っている。</p> <p>(1)民俗学的観点から見る里地里山の暮らし 里地里山の保全活用は、地域の物質的循環や活用について踏まえるとともに(図1)、精神的・思想的観点からのアプローチも重要である。例えば地域集落の暮らしや近所づきあいの風景から見られる互助協働の伝統、自足といった考え方、祭りや年中行事等にみられる暮らし人々のライフサイクルや生き方の思想から学ぶべき視点が多いと言える。</p> <p>(2)里地里山の生業一人と人のつながりを生み出す価値づくり 里地里山における生業(山菜、キノコ等の採取、手仕事による工芸、棚田・段々畑・家屋敷近傍の菜園等)にみられる小規模多品目の営農活動)には、持続的に実施可能で人間の身体感覚と折り合える「自足的」な資源利用が認められる。 こうした生業のあり方はグローバル経済で求められる生産様式と相反する点もある。このため人と人のつながりを再構築する価値観を内包した地域内で循環可能な里地里山の生業づくりの視点が必要である(図2)。</p> <p>(3)里地里山の暮らしと生業を伝承し新たに実践する場としての「なりわい創造塾」の実施 里地里山の特徴や伝統的考え方を活かしながら、新たな価値を生み出す暮らしと生業のあり方を検討し、実践するための取り組みとして「なりわい創造塾」を実施している。下記の2年間にわたるカリキュラムに取り組んでいる。 ①1年目:基礎編・プランニング 地域を歩き、「なりわい」を営む方に話を聞き、里山整備や農作業を体験することで、個々の将来のイメージや地域のイメージを描く。専門家の指導のもと、塾生自身が具体的なキャリアプラン、プロジェクトプランを立てる。 ②2年目:実践編 1年目の基礎講座を踏まえて受講生一人ひとりがなりわい創造に向けたプロジェクトを立ち上げる。企画段階からアドバイザーやスタッフがサポートしていく。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)里地里山の地域集落の暮らしや考え方への配慮 里地里山の保全と活用について、物質的な資源の循環と利用だけでなく、地域集落や人々の暮らしと生き方・思想という観点から配慮すべき事項を示唆している。計画策定及び実行の際に重要な地域文化や経済的側面から考慮すべき事項を提示している。</p> <p>(2)地域の「生業」という観点からの新たな価値提唱 市場経済とは異なる里地里山独自の生業のあり方と特徴を踏まえながら、新たな価値を付与した里山の生業づくりを提唱。さらに普及啓発活動としてプランニングから実践までを行うカリキュラムを実行している点で先駆的モデルと考えられる。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>なりわい創造塾のカリキュラムの展開プロセス(「なりわい創造塾」ウェブサイトより)</p> <p>なりわい創造塾で「想い」を「カタチ」に</p> <p>1年目/基礎づくり編</p> <p>2年目/実践編</p> <p>「なりわい創造塾」塾生を集め、研修会を行うとともに、プランニングと活動を実践</p> <p>なりわい創造塾実施・運営体制</p> <p>なりわいナビゲーター (講師・アドバイザー各地の実践・有識者)</p> <p>地域 (フィールド提供と実践指導)</p> <p>共存の森ネットワーク(コーディネーター・カリキュラム運営)</p>
<p>図・写真資料</p>	<p>地球生態系 —持続可能な社会とは—</p> <p>図1 資源の利用と循環 (里地里山資源と地下資源の相違)</p> <p>QOL(生活の質の向上)</p> <p>今までの生活の質</p> <ul style="list-style-type: none"> 所得の増大(生活は買うもの・石油文明) まちの拡大と発展(孤独) 病気の治療 <p>価値観の変化</p> <p>これからの生活の質</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きる実感をどのように体感するか(生活はつくるもの・田舎暮らし) コミュニティの再生(群れにもどる自分・絆) 死生観(生と死は同じ。人としての尊厳) <p>図2 生活の質と価値観の変化について</p>
<p>参考資料</p>	<p>里なび研修会in埼玉県パワーポイント資料(澁澤寿一氏) なりわい創造塾ウェブサイト http://www.kyouzon.org/nariwai/index.html</p>